

## 9 - 13 福岡湾付近の断層分布

### Distribution of the Faults in the Fukuoka Bay and Adjacent Area.

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

陸域の活断層については、これまで多くの研究が進められ、分布については相当に詳しく明らかにされている。しかし、海域の断層については、データの整備が不十分のためその分布は良く分かっていない。海上保安庁水路部は、沿岸海域の断層分布を明らかにすることを目的として音波探査を実施している。今回は、測量船「明洋」により1996年5月に行われた福岡市の北方海域についての結果について報告する。

音波探査はスパーカー（発振エネルギー：1000J，発振間隔：1秒，周波数域：100～500Hz）とチャープソナー（発振エネルギー：30J，発振間隔：1/4秒，周波数域：3～8kHz）により行った。

測線は東西方向に900m間隔で設定し、これと交差する南北方向の測線を6kmで設けた。

また、志賀島の内側（博多湾内）では航路に沿って東北東 - 西南西方向で4測線の探査を実施した。

今回の調査から明らかとなった、本海域における特徴は以下の通りである。

北部九州に知られている西山断層系の延長にあたる、大島の北西に断層が認められる。ここでは、更新統において落差50m以上の垂直方向の変位の累積が認められる。ただし、沖積層に変形が及んでいるかどうかはよく判らない。この断層系は、今回の調査の範囲では約10km認められるが、断層の北西端は調査区域外にあるので総延長は不明である。

志賀島の北西約5kmに、北西 - 南東走向の断層が認められる。更新統に変形が及んでいるが沖積層における変形の有無についてはよく判らない。更新統における変位は落差十数m程度にすぎない。今回の調査の範囲では延長約10kmにわたって追跡できる。ただし、断層の北西端は調査区域外にあるので総延長は不明である。

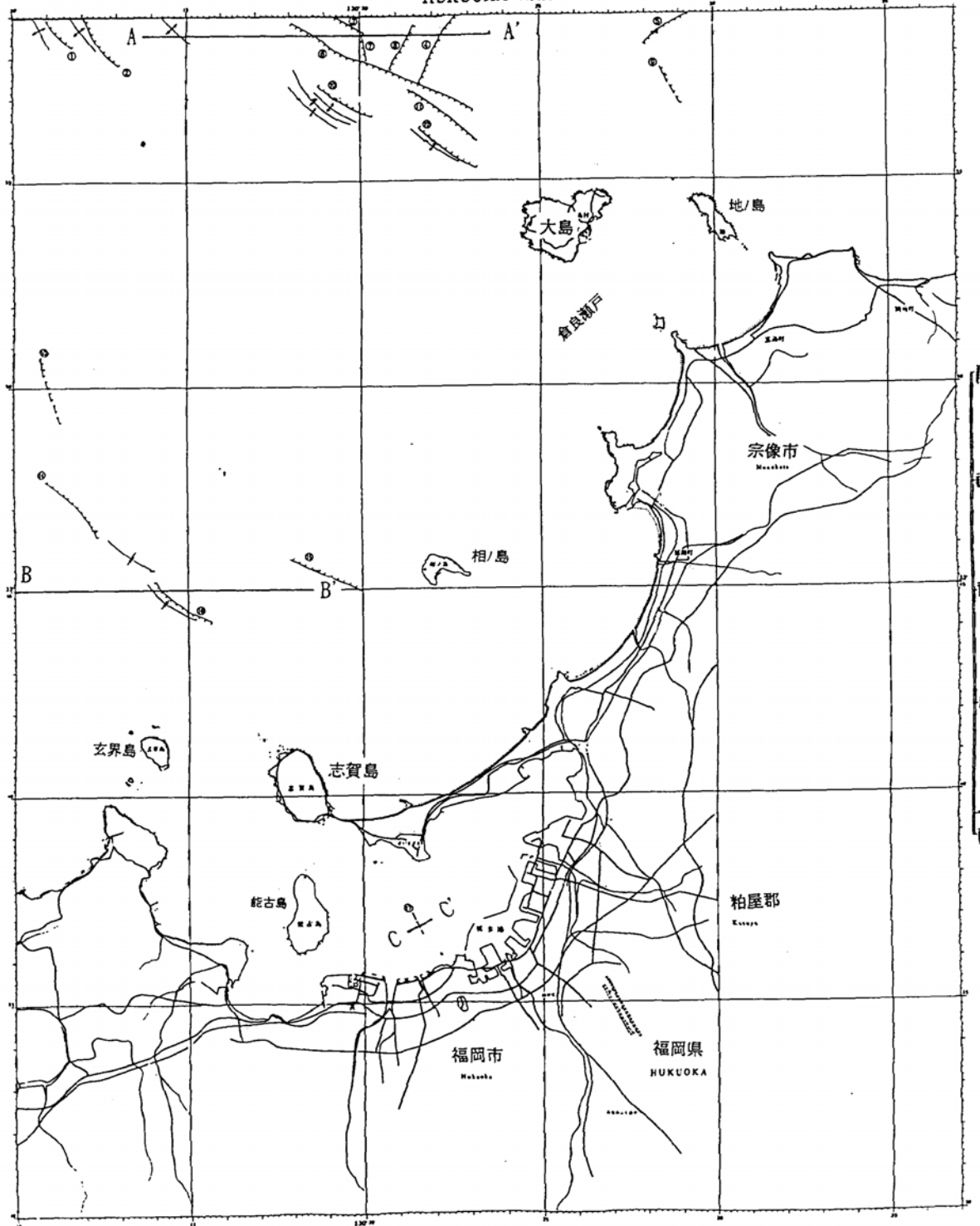
博多湾内では4測線の調査を行った。断層の可能性のある記録は1測線でのみ得られた。ここでは、更新統の基底で数m程度の段差が認められる。ただし、単なる浸食地形の可能性もある。変位の累積等ははっきりしない。なお、警固断層の延長付近に位置しているものの、落ちの方向が逆であることから警固断層そのものではないと考えられる。警固断層は北部ほど変位量が大きいとされている（鬼木ほか，1996）が、今回の調査では警固断層が存在する陸岸から2kmの地点を横切る測線では、警固断層と同じ東落ちの断層は検出されなかった。

#### 参 考 文 献

- 1) 鬼木史子・松田時彦・下山正一：福岡市を走る警固断層の詳細位置と地下形態。地球惑星科学関連学会合同大会予稿集，1996，155.

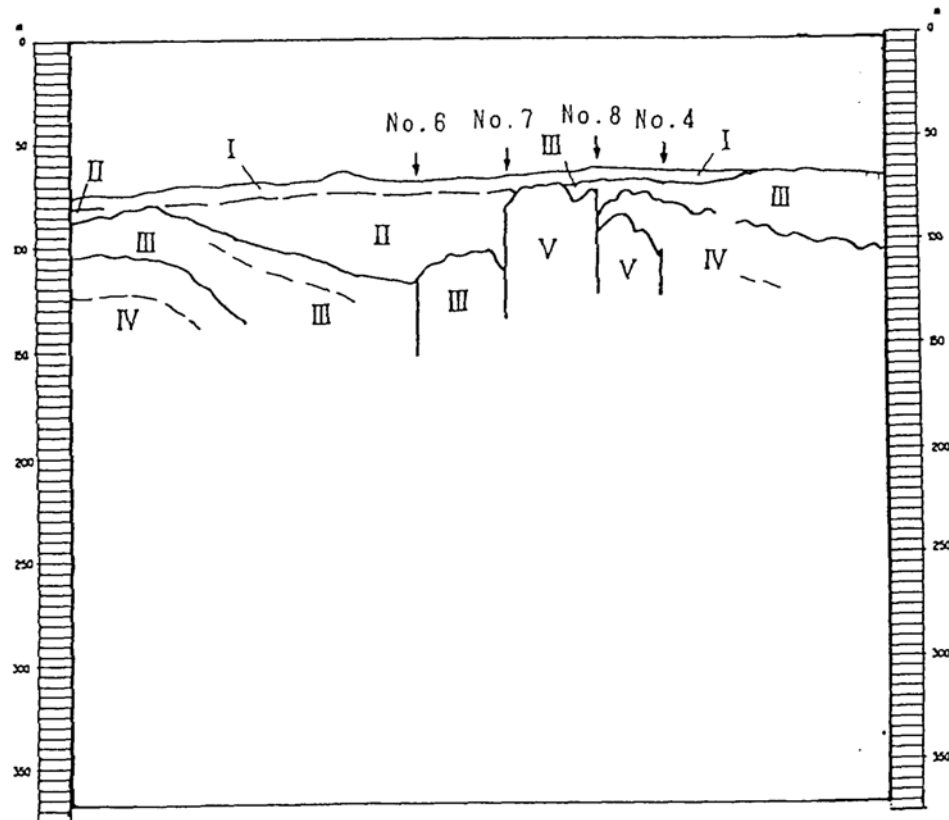
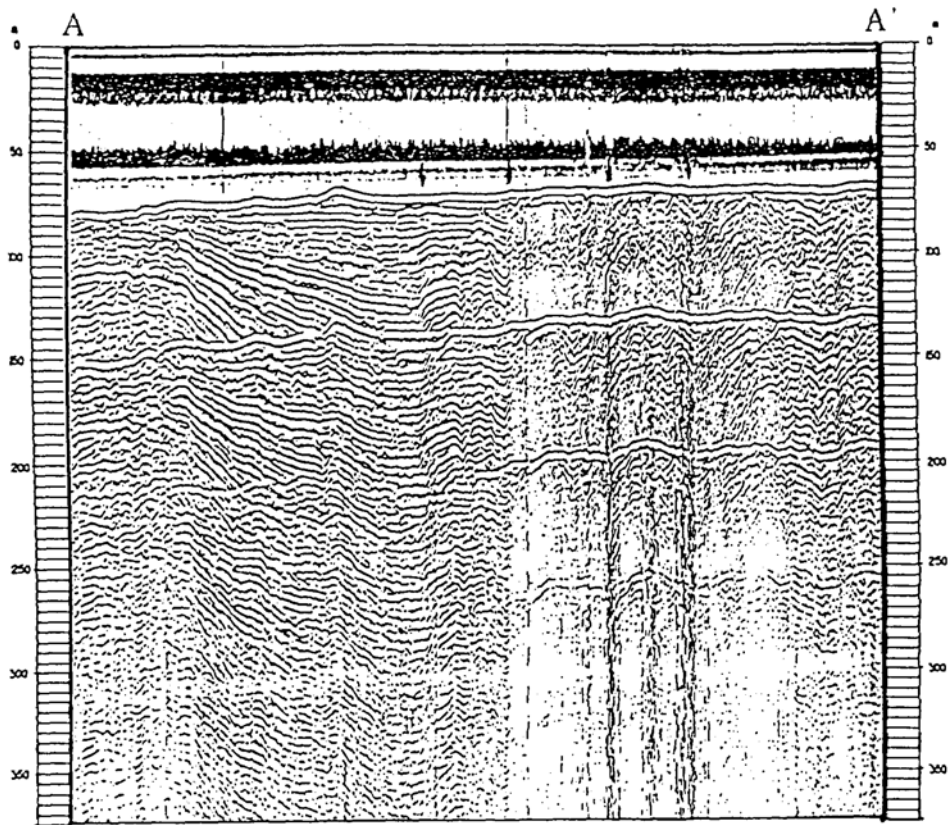
日本  
九州北岸  
福岡湾

HIPPON  
KYUSHU-NORTH COAST  
HUKUOKA WAN



第1図 福岡湾付近の断層分布

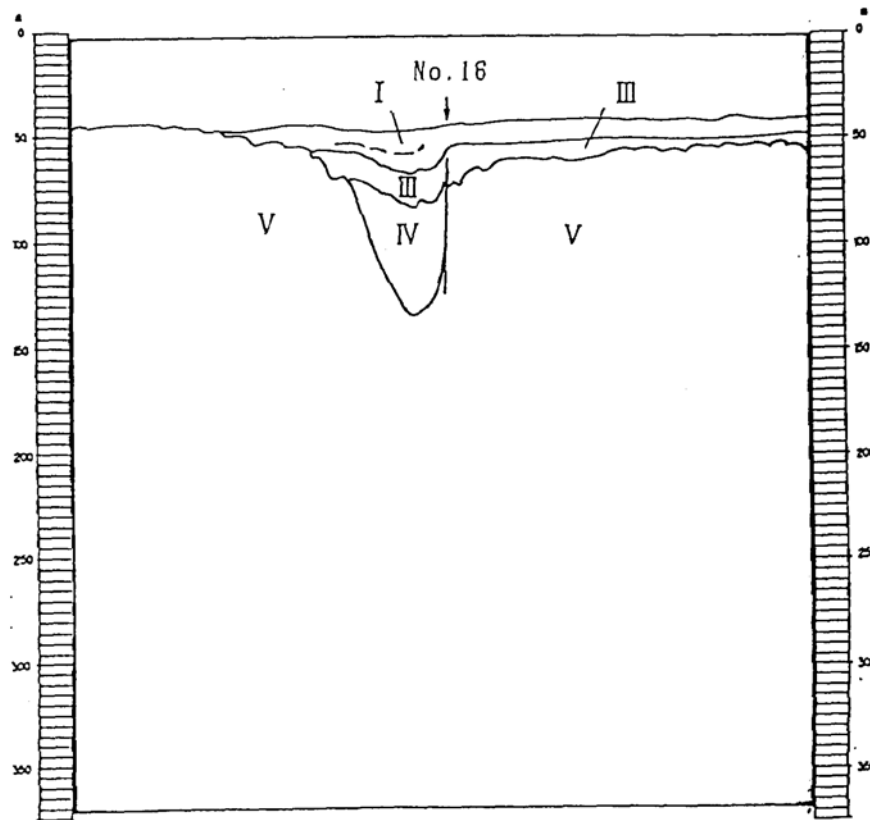
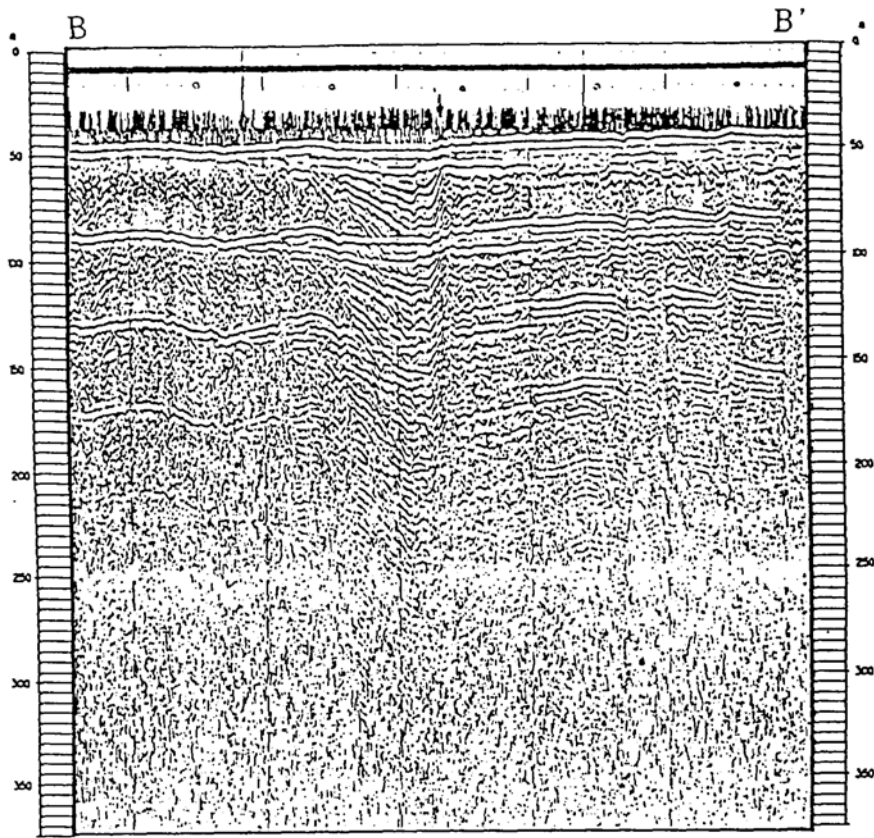
Fig. 1 Distribution of the Faults in the Fukuoka Bay and Adjacent Area.



A—A' No. 4, No. 6, No. 7, No. 8断層

第2図 福岡湾付近の地質断面。断面の位置は第1図に示す。

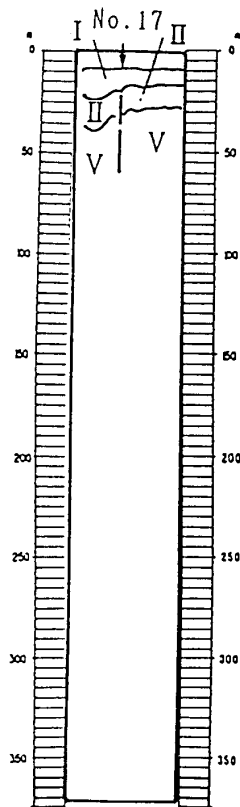
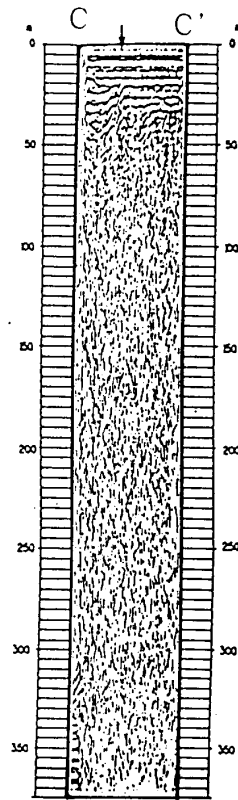
Fig. 2 Geological Cross Sections of the Faults in the Fukuoka Bay and Adjacent Area.  
Crossed lines are shown in Fig. 1.



B-B' No. 16断層

第2図 つづき

Fig. 2 (Continued)



C—C' No. 17断層

第2図 つづき

Fig. 2 (Continued)